

那須野が原開拓の歴史の一端に触れる。(コース順に)

《下記の解説は、那須塩原市ホームページより部分引用》

大山墓所：元帥大山巖（いわお）の他、捨松夫人や娘信子など大山家の人々が埋葬。

赤煉瓦建物：明治 36 年頃大山農場製のレンガを使用。大山別邸の門番詰所であるといわれる。

西那須野駅：明治 19 年に東北本線が開通し、那須駅（那須停車場）として開業。現在の駅舎は、東北新幹線の建設とともに昭和 55 年に新築され 3 代目。

一本杉：広大な那須野が原原野を往来する人々の目印として植えられた内の一本だけが残る。

1955 年（昭和 30 年）頃地域の人々は、この杉の木を御神木とした稲荷神社を祀る。

三島開墾紀恩碑（きおんひ）：1880 年（明治 13 年）那須野が原開拓に着手した肇耕社（ちょうこうしゃ）の創設者 三島通庸（みちつね）の偉業を称えたもの。移住者や関係者により大正 11 年、陸羽街道（旧国道 4 号）と塩原街道（旧国道 400 号）との交差する三島農場の中心に建立。

石塚：扇状地で石に覆われた那須野が原は農耕が出来ず。開拓の際に掘出された石を畑に積上げたもの。「石ぐら」とも称す。那須野が原開拓苦難の証で、那須野が原博物館の入り口にもある。

赤田山：標高 310.9m。那須野が原に残る赤土層からなる丘陵の 1 つ。江戸時代の絵図にも表記。

明治 13 年に三島通庸（のちの栃木県令・初代警視總監）が、那須野が原最初の大農場肇耕社を設立。約 1027 ㌦の開拓に着手。この丘上で開拓の構想を練る。

母智丘（もちお）神社：通庸ゆかりの九州都城にある母智丘神社の神体（神鏡）の複製を奉納。

以前、赤田山西側に人工の「赤田沼」が有り農業用水として利用。当時は子ども達の良い遊び場で、夏は水遊び、冬はスケートなどを楽しんでいた。（現在は埋立てられて消滅）

三島神社

主祭神：豊受大神 三島大神 保食神。 合祀神：開拓先人 142 命（昭和 47 年 10 月 13 日）

創 立 明治 22 年（1889 年）移住者たちにより創建

明治 39 年（1906 年）7 月 9 日 母智丘神社より分霊遷座

由緒沿革 鎮座地三島は明治 14 年（1881 年）8 月、明治天皇東北巡幸の際の聖旨により、有栖川宮織仁親王がその状況風物を見学された所。岩倉右大臣や顯官の視察など。時の県令、三島通庸は開墾事業を起こすと同時に、自ら母智丘の頂に一祀を建立し入植者も崇敬するに至った。

明治 42 年 10 月本殿以下の神社施設が改築竣工。

昭和 50 年 神輿庫の建設、諸施設の修理整備。三島赤田地域住民の守護神となる。

毎年 10 月第 2 日曜日に例大祭が行われます。

烏森神社： 主祭神 天照大神 豊受大神 倉稻魂神

平安時代の 902 年烏ヶ森稲荷社として建立。伝 1193 年將軍源頼朝が那須野巻狩りの成功祈願。

1885 年（明治 18 年）4 月 15 日、那須疏水開削の起工式が行われた。1888 年 印南丈作、矢板武が開拓の氏神として社殿を再建。同時に松と桜を奉納植樹。1894 年（明治 27 年）、那須開墾社の開墾成業式が神前で行われ開拓事業の成功を盛大に祝った。

烏ヶ森：標高 297m の丘。那須西原（那須野ヶ原の一部）と呼ばれる原野のほぼ中央にある。鎌倉時代初頭 1193 年、将軍源頼朝、那須野巻狩の際この丘に上ったと伝わる。江戸時代、石上村民により稲荷神社が祀られた。明治時代、那須野ヶ原開拓事業が進み、見晴らしが良いこの丘で歴史的な式典も行われた。特に明治 12 年には伊藤博文（後の首相）・松方正義（同）が丘上に上がり、同 14 年には有栖川宮熾仁親王が記念の松を植樹した。また同 18 年には、丘上で那須疏水の起工式が行われた。明治 21 年には新しく烏森神社が祀られ、同 31 年に印南文作（那須野ヶ原開拓の恩人）の記念碑が建立。明治末期から昭和初期には、関東地方有数の桜の名所に。

乃木神社：明治天皇崩御に際し殉死した陸軍大将 乃木希典を祀る神社。乃木大将は、明治 24 年に石林に農地を求め、「農は国家の大本（おおもと）なり」と自ら鋤（すき）を手に畑を耕す。将軍ゆかりの品々を展示する宝物館、別邸が保存。桜並木は参道の約 600 メートルの並木です。花の開花する 4 月中旬には、多くの人々が見学に訪れます。

乃木別邸：明治 25 年に自ら設計。建坪 53 坪の木造瓦葺。乃木大将はこの地をこよなく愛し、通算 4 年間静子夫人と過ごし、自ら鋤（くわ）や鋤（すき）を握って農作業にいそしんだ。現在の別邸は平成 5 年に再建。見学可能。

静沼：別邸傍の水田跡地に造られた灌漑用の池。境内を流れる藁沼（ひきぬま）用水から水を引いている。夫と共に殉死した静子夫人にちなんで銘々。

ぽっぽ通り：旧東野鉄道西那須野～黒羽間の鉄道跡地で、昭和 42 年 12 月に廃線となった。

以下は道筋では有りませんが、参考迄に。

幕末の大田原藩の領地：下大貫村、上大貫村、高阿津村、宇都野村、金沢村、下田野村、関屋村、遅野沢村、接骨木村、横林村、上横林村、折戸村、藁沼村

観象台：北点は、畜産草地研究所の正門左側（国道 400 号沿い）に、南点は、大田原市実取にある。明治 8 年から明治政府が「関八州大三角測量」を行う際の三角測量の基点とした。

明治 11 年 4 月から 2 回基線測量が行われ、北点と南点を結ぶ基線の長さは 10,628.310589m。

縦道：観象台北点と南点の 2 地点を結ぶ直線（基線）が元になる。明治 13 年に開拓を始めた那須開墾社が農場の中央部を縦貫するこの基線を開拓道路として利用したもの。現在もライスラインの一部として真っ直ぐな道路である。この縦道に沿って那須疏水第四分水（縦堀）が流れるが直接水路を見ることは出来ない。

千本松牧場：総理大臣を務めた松方正義が明治 26 年に那須開墾社より譲り受け、大農具を導入して欧米式農場を開いたことに始まる。赤松林が広がっていたことから「千本松」と命名。周りの赤松林はオオタカの営巣地でもあり、貴重な自然が保護されている。

槻沢遺跡（縄文遺跡）：高柳地区と槻沢地区の境を流れる津室川の東側の小高い丘陵地帯に広がる縄文時代中期から後期（約 4000 年～5000 年前）の遺跡です。発掘の様子、出土品は復元され那須野が原博物館に展示される。